

2023年  
7月  
刊行予定

# 教育哲学事典

Encyclopedia of Philosophy of Education

「教育には哲学が必要である」と言われるが、価値が多様化する現代において、教育を一定の信念や方針に収斂させることは困難であろう。それでも、教育に携わり関心を寄せる人々が、教育についての考えを深め自らの信念や方針を定めようとしたとき、教育哲学の多様な研究成果は確かな手がかりとして役立つに違いない。現代の教育哲学研究の最先端の姿を集約したうえで展望し提示する。学会の総力を結集した事典。

最新情報・詳細は  
こちらから  
丸善出版ホームページへ



現代の教育哲学研究の最先端を集約

# 教育哲学事典

Encyclopedia of Philosophy of Education

## 関連書籍

### 教育社会学事典

日本教育社会学会 編  
A5判・910頁  
定価**24,200円**(本体22,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-30233-0



教育社会学を、三部構成、全19章で解説。現代教育社会学の全体像を描き出す。教育社会学の主要テーマを約300項目掲載した事典。

### 発達心理学事典

日本発達心理学会 編  
A5判・712頁  
定価**22,000円**(本体20,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-08579-0



妊娠・子育てから終末期ケア・長寿研究までを周辺分野の視点を含め、「そだてる」「はたらく」など状況別に紹介。全項目2頁完結。

### 日本思想史事典

日本思想史事典編集委員会 編 日本思想史学会 編集協力  
A5判・744頁  
定価**24,200円**(本体22,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-30458-7



日本思想史学会による編集協力のもと、歴史学、政治学、倫理学、宗教学、文学などさまざまな視点から日本思想を解説した中項目事典。

### 啓蒙思想の百科事典

日本18世紀学会 啓蒙思想の百科事典編集委員会 編  
A5判・714頁  
定価**22,000円**(本体20,000円+税10%)  
ISBN978-4-621-30785-4



ヨーロッパ史における18世紀は「啓蒙の時代」と呼ばれる。この多様な可能性を秘めていた「光の世紀」の内実を浮き彫りにする一冊。

#### 編集委員長

今井 康雄 東京大学名誉教授

#### 編集幹事

小玉 重夫 東京大学大学院教育学研究科教授  
田中 智志 東京大学大学院教育学研究科教授  
松浦 良充 慶應義塾大学文学部人文社会学科教授  
松下 良平 武庫川女子大学教育学部教授

#### 編集委員

岡部 美香 大阪大学大学院人間科学研究科教授  
小野 文生 同志社大学グローバル地域文化学部教授  
西平 直 上智大学グリーンケア研究所教授・京都大学名誉教授  
西村 拓生 立命館大学文学部人間研究学域教授  
丸山 恭司 広島大学大学院教育学研究科教授  
山名 淳 東京大学大学院教育学研究科教授

(五十音順 ※所属・肩書は2023年4月現在)

丸善出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 神田神保町ビル 営業部  
TEL (03)3512-3256 FAX (03)3512-3270 <https://www.maruzen-publishing.co.jp>

丸善出版株式会社：発行 FAX 03-3512-3270

2023年7月刊行予定

教育哲学事典

ISBN978-4-621-30821-9

定価24,200円(本体22,000円+税10%)  
※価格は変更になる場合があります。

冊

冊

お名前

ご住所 〒

TEL

取扱店

教育哲学会 編

A5判・768頁  
定価**24,200円**(本体22,000円+税10%)  
※価格は変更になる場合がございます。  
ISBN978-4-621-30821-9

◆電子書籍のお求めはこちら



丸善出版

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間での商品手配の目的に利用させていただきます。

tom.23.A0B



## 刊行にあたって(一部抜粋)

「教育には哲学が必要である」とは、しばしば耳にする物言いである。教育という営みには、それを支える確固とした信念や方針が必要だ、ということであろう。そうした意味での「哲学」を、この『教育哲学事典』は提供できるだろうか。その答えは「イエス」でもあり「ノー」でもある。「ノー」だというのは、現代の教育哲学研究——その最先端の姿を、集約した形で提示しようというのが本事典の目論見である——は、その対象も、それを支える考え方も、実に多様であり、一定の信念や方針にそれを収斂させることなど到底不可能だからである。にもかかわらず「イエス」と言える部分があるのは、教育に携わる、あるいは関心を寄せる人が、教育についての考えを深め自らの信念や方針を定めようとしたとき、本事典に集約された多様な研究成果が確かな手がかりとして役立つと考えるからである。(中略)

教育を支える哲学は、社会的次元でも時間的次元でも生じてくるこうした不確定性を、克服していく必要があるだろう。その意味はもちろん、不確定性を否認したり排除したりするという事ではない。不確定性を包み込むのに十分な度量が必要だということである。予測不能な未来への多角的な見通し、意図せざる副次効果への幅広い目配り、そこでの判断を支える柔軟かつ頑健な価値意識、といったものが求められるだろう。これに応えるためには、教育の現状にのみ目を向けるのではなく、過去から未来を見通す歴史的な視点を持つことも必須になる。このように、教育の哲学には、個別的な経験や実証的なデータの限界を超える懐の深さと息の長さが求められるのである。その支えとなる確かな知見を、『教育哲学事典』は提供したいと考えている。

本事典は3部16章で構成されている。第1部(第1～5章)は、「教育哲学の基礎概念」「教育の理念と目的」「教育の方法と内容」「教育哲学の諸潮流」「現代教育論のキーワード」という5つの観点から教育哲学の概要を描き出す。これは本事典全体に言えることであるが、すべての項目が見開き2頁あるいは4頁に収まるように項目設定を工夫している。各項目には、単なる辞書的な情報に止まらない、一篇の読み物としても読める内容が盛り込まれているはずである。続く第II部(第6～10章)と第III部(第11～16章)では、現代にまでつながる教育思想の歴史的展開を、西洋(第II部)と日本および東洋(第III部)に分けて論じる。双方とも、古代・中世～近世～近代～現代という時代区分に即して、重要な人物や思想潮流を項目として取り上げ、解説している。教育哲学を支える伝統を、最新の研究成果を踏まえて確認することが目指される。そのなかでも、現代に区分される諸項目、とりわけ第III部現代篇(第14～16章)が扱う諸項目の内容は、第I部で解説された現代教育哲学の知見へとそのまま接続していく。こうして、一旦は現在(第I部)から過去(第II～III部)へと遡った解説が再び現在へと帰着し、本事典全体の円環が閉じられることになるのである。

本事典は、教育哲学会との密接な連携のもとで編集が進められた。学会理事会が中心となって編集幹事会・編集委員会を編成し、項目の設定や執筆者の選定に当たった。学会外の専門家に執筆を依頼したものもあるが、項目の多くが教育哲学会の会員の執筆になるものである。(中略)

1957年創設の教育哲学会は、時々の教育の動向からは一定の距離を保ちつつ、教育と教育学の学術的な基盤形成に努めてきた。その長い歴史のなかでも、学会の総力を挙げた専門事典の編集はこれが初めてのことになる。本事典が、教育に哲学を求める多くの人々の座右の書として、長く読み継がれることを期待したい。

2023年5月  
教育哲学会代表理事  
坂越正樹  
教育哲学事典編集委員長  
今井康雄

## 目次

### 第I部 教育哲学の概要

#### 第1章 教育哲学の基礎概念

ロゴスとパトス/人間性と人間性/人間形成と完全性/生と本質/ヘレニズム哲学とキリスト教思想/学ぶと教える/言語・情報・メディア/主体とエージェント/教育と学校/子ども・家庭・社会/子どもと大人/師と教員/贈与と交換/臨床とかけがえのなさ/越境と超越/記憶と想起/コラム:教育における自由とはなにか?

#### 第2章 教育の理念と目的

道徳と倫理/幸福と愛/生活と学校/福祉/遊び/仕事と労働/芸術と美/テクノロジ/宗教と超越/戦争と平和/多文化主義とコスモポリタニズム/国家/社会性と市民性/資本主義/人間・動物・ロボット/コミュニケーション/フロネーシス/リテラシー/価値と事実/知識と能力/人格と人材/コラム:文理融合の中の教育哲学

#### 第3章 教育の方法と内容

ソクラテスの問答法/リベラル・アーツ/声と文字/職業訓練と教育/教養/学力論の相剋/形式陶冶と実質陶冶/自律と他律/道徳教育/カリキュラム/評価/一斉教授と規律訓練/子ども中心主義/プロジェクト型学習/モンテッソーリ・メソッド/シュタイナー教育/フレネ教育/ドクローリ・メソッド/イエナ・プラン/フレイレの識字教育/バイリンガル教育/自己管理的学習/グローバル化と教育(哲学)/ケイバビリティ・アプローチ/環境教育/哲学教育/AI技術革新と教育の変容/コラム:コンピテンシーとコンテンツ

#### 第4章 教育哲学の諸潮流

哲学者と教育/ギリシアの形而上学とキリスト教の存在論/カントと啓蒙/人間形成論/「古典」の構築/精神科学的教育学/教育関係論/教育人間学/存在論と教育/実存主義と教育/教育概念の分析/分析的教育哲学とその批判/マルクス主義と教育/批判的教育学/解放的教育学/学校批判と近代社会批判/プラグマティズムの形成と展開/デュエイの教育哲学/進歩主義教育とその批判/フェミニズムと教育/システム論と教育/正義論と教育/脱構築以後の哲学の展開と教育/子どもの哲学/発達と教育/近代論と近代教育学批判/京都学派と教育人間学/臨床教育学とケア論/教育政治学と教育改革/コラム:作用の論理としての教育学

#### 第5章 現代教育論のキーワード

対話と呼応/アンシエーションイズム/熟議デモクラシー/コミュニタリアニズム/ポストコロナリズム/承認論/市民性教育/構成主義/社会構成主義/アイデンティティ・ポリティクス/ジェンダー・セクシュアリティ/ネオリベラリズム/ケアの倫理/教育関係/学び/「開かれた学校」とフリースクール/教えるの再発見/障害/いじめと不登校/コラム:公共性の再発見

### 第II部 西洋の教育思想

#### 第6章 古代・中世

ソクラテス以前とソクラテス/イソクラテス/プラトン/アリストテレス/キケロー/パウロ/クインティリアヌス/アウグスティヌス/サン・ヴィクトルのフォーゴート/トマス・アクィナス/エックハルト/コラム:神の名

#### 第7章 近世

人文主義と教育思想/宗教改革と教育思想/エラスムス/ルター/ラブレ/イグナチオ・デ・ロヨラと靈操/メランヒトン/カルヴァン/モンテニユ/ペーコン/ヤーコプ・ペーメ/パンソフィア/科学革命と人間科学の黎明/普遍言語の探求/コメニウス/デカルト/パスカル/スピノザ/ライブニッツ/ロック/コラム:コスモスの変容

#### 第8章 近代

ルソー/スミス/カント/ヘルダー/ペスタロッチ/カンペ/ベンサム/シラー/フィヒテ/シュライアマハー/フンボルト/ヘーゲル/ヘルバルト/ヘルバルト派/フレーベル/エマソン/J.S.ミル/マルクス/スペンサー/ディルタイ/ジェイムズ/ニーチェ/フロイト/デュルケム/コラム:啓蒙と教育

#### 第9章 現代I——近代の超克

ソシュール/ジンメル/フッサール/ベルクソン/デュエイ/シュタイナー/キルパトリック/パブリー/ヤスパース/ウィトゲンシュタイン/ハイデガー/ベンヤミン/ハッチンズ/ガタマー/ボルノウ/ブラメルド/ランゲフェルト/ピーターズ/新カント学派教育学/ウィーン学団/フランクフルト学派/科学主義・近代批判・他者

#### 第10章 現代II——現代思想の展開

ブーバー/フロムとマルクーゼ/ポパー/サルトル/レヴィナス/アレント/メルロ＝ポンティ/アルチュセール/ロールス/リオータル/イリイチ/フーコー/ルーマン/ノディングズ/ハーバーマス/デリダ/(アガンベン)/バトラー/言語ゲーム/コラム:教育哲学と全体主義

### 第III部 日本(東洋を含む)の教育思想

#### 第11章 古代中世と教育

「教育」の思想か/本覚思想の系譜/密教思想の系譜/浄土思想の系譜/禅思想の系譜/芸道思想の系譜/コラム:前近代と非近代

#### 第12章 日本の近世と教育思想

近世思想と儒学/朱子学と朱子学批判の系譜/中江藤樹と江戸初期の儒者たち/貝原益軒と養生思想の系譜/伊藤仁斎と古義学の系譜/荻生徂徠と古文辞学の系譜/本居宣長と国学の系譜/石田梅岩と心学の系譜/懐徳堂と批判精神の系譜/後期水戸学の国体論とその系譜/コラム:安藤昌益

#### 第13章 日本の近代と教育思想

近代化・西洋化と教育/師範教育と教育思想,ペスタロッチ主義の受容/近代学校教育システムの思想/儒教主義と教育,教育勅語の思想/キリスト教と教育/仏教と教育/「道」の教育思想/「教育学」の確立とヘルバルト主義/アカデミズム教育学の形成/コラム:思想の受容と「翻訳」への問い

#### 第14章 新教育の地平の中で

大正新教育の多様な実践と思想/海外の新教育思想の受容/デュエイの思想的受容の展開/新教育学校の思想/カリキュラムと教育方法の思想/幼児教育の思想/「全人教育」と「田園都市」の思想/芸術教育の思想/生活綴方の思想/長田新の戦前と戦後/コラム:新教育という光と影

#### 第15章 せめぎ合うナショナリズムとデモクラシー

法と教育/「政治」と教育/官僚制と人間形成/道徳教育の歴史/教育科学運動/社会運動と主体形成/京都学派の教育思想/「戦後日本」の再建と教育学/戦後民主主義と教育思想研究/55年体制と冷戦期教育学/コラム:コロナリズムと近代日本の教育

#### 第16章 近代と近代教育の行方

経済成長と教育/科学技術の発展と教育の思想/「生」と教育の思想/ポスト国民国家の教育構想/学力論とエヴィデンス・ベースト・エデュケーション/教育改革と教育哲学/教育メディア論/「超スマート社会」の教育/教育哲学会の思想史/コラム:教育哲学の(一つの)往き道

### 内容見本

